



慶應義塾大学病院の
ソーシャルワーカーを志望される皆様へ

2025.10

目次

1. 慶應義塾大学病院の概要・アクセス
2. ソーシャルワーカーの配置・目標
3. ソーシャルワーカーの業務紹介
4. 当院で働くことの強み
(業務内容、医療連携推進部、所属するチームの紹介)
5. 教育研修システム・キャリアラダー
6. 職場環境

1. 慶應義塾大学病院 概要

2025年3月現在

特定機能病院

病床数 : 950床

病床稼働率 : 88.8%

外来患者数 延べ人数 : 869446,人 / 1日平均 :3,196人

入院患者数 延べ人数 : 307,987人 / 1日平均 :844人

救急患者数 : 14,406人

平均在院日数 : 10.7日



アクセス

住所・電話番号

〒160-8582

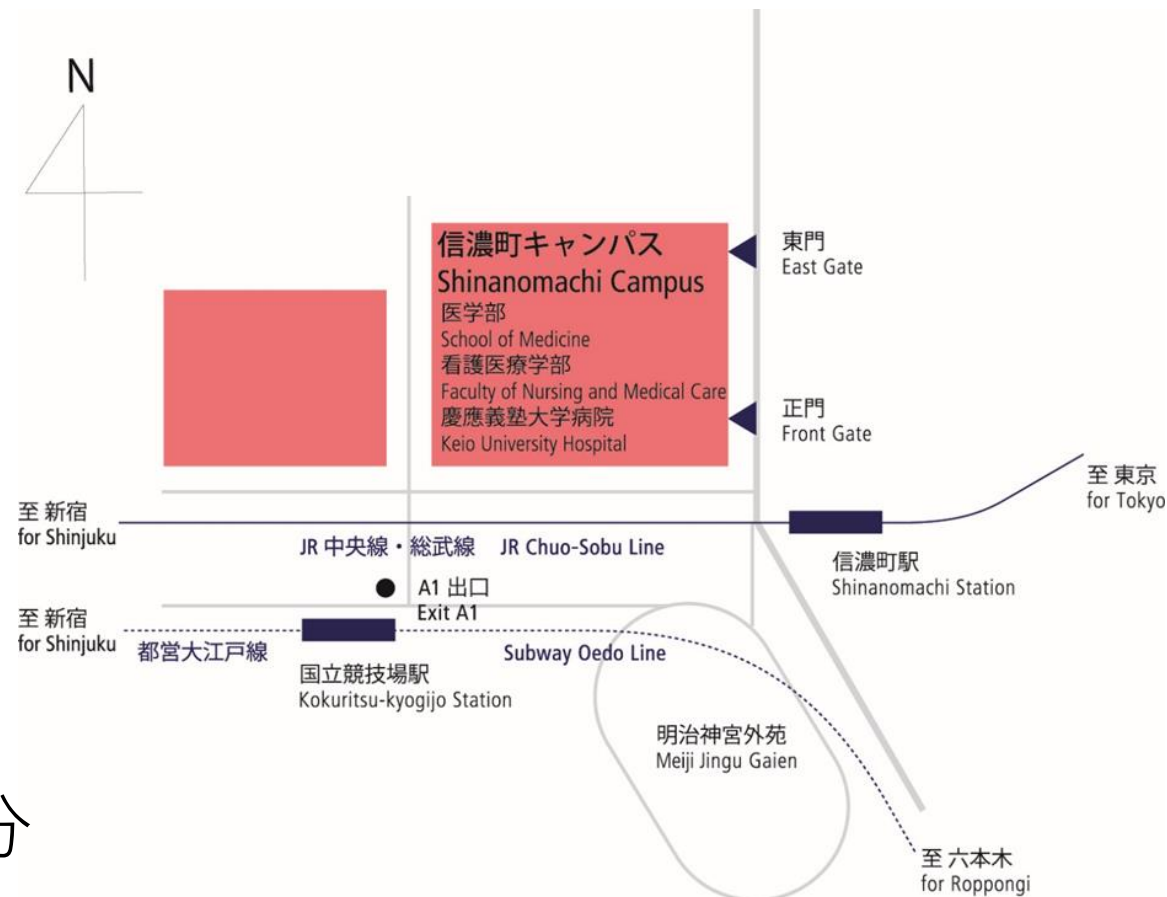
東京都新宿区信濃町35

TEL：03-3353-1211

交通アクセス

信濃町駅（JR総武線） 徒歩1分

国立競技場駅（都営地下鉄大江戸線） 徒歩5分

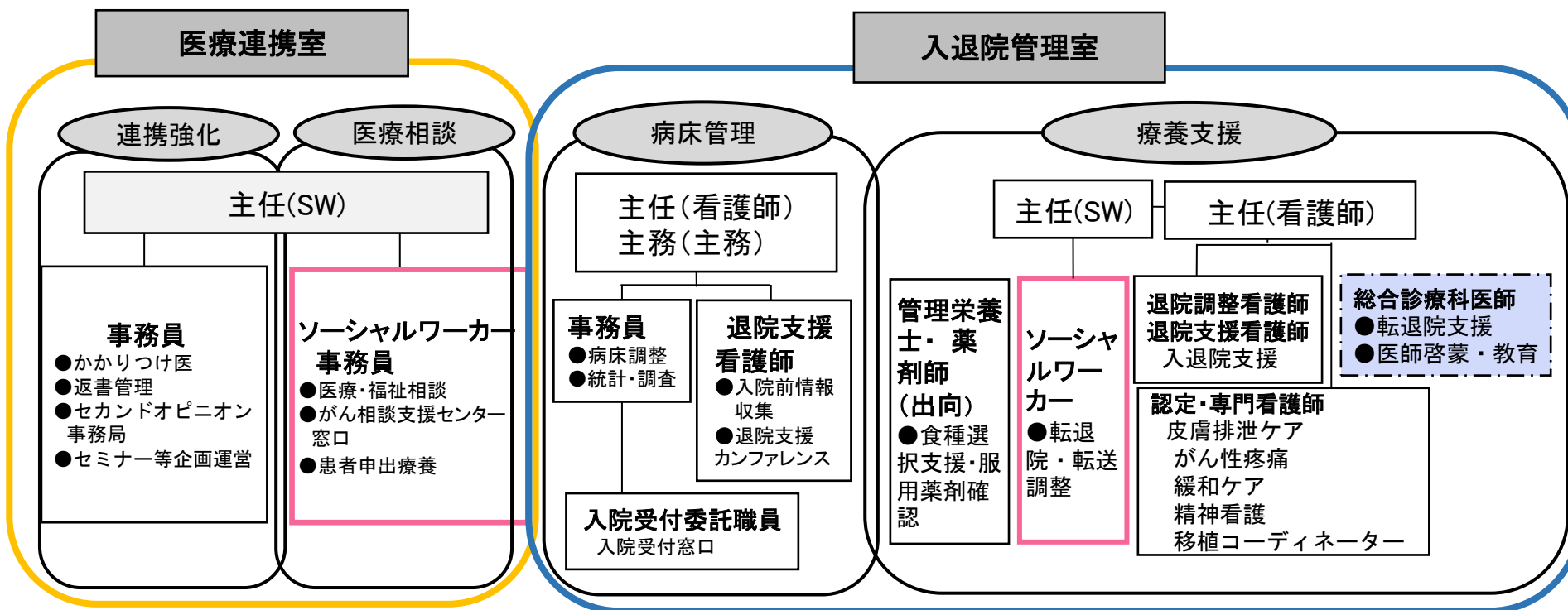


2. 当院におけるソーシャルワーカーの配置

医療連携推進部 機能図

組織図：病院管理部門

機能：療養支援部門の看護部と協働



入院前から退院後までの支援協力体制

ソーシャルワーカーの目標

1. 慶應義塾大学病院の患者に対して、専門的な社会福祉実践を通じて適切な医療が受けられるよう支援を行う。
2. 地域や医療機関との連携を通じて、地域福祉の向上に貢献する。
3. 医療ソーシャルワーカーの共通基盤となる「医療ソーシャルワーカー倫理綱領」を通じて適切な成長過程を踏めるよう、院内外の研修会に参加して資質の向上に努める。
4. 各部門と連携し業務を行うことで慶應義塾大学病院に貢献する。

3. ソーシャルワーカーの業務紹介

ソーシャルワーカーの業務には

1. 療養中の心理的・社会的問題の解決、調整援助
2. 退院援助
3. 経済的問題の解決、調整援助
4. 受診・受療援助
5. 社会復帰援助
6. その他、社会資源利用に向けての援助
7. 院内外の関係職種・機関との連携

などがあります。

業務紹介

●退院（在宅・転院）援助

患者さんの身体的・心理的・社会的状況および希望する生活に応じて、他職種と協働し退院支援を行います。

在宅に向けては、地域のケアマネジャーや訪問診療医、訪問看護等と連携し、介護サービスや在宅医療の導入・調整を図ります。

転院に向けては、地域の医療機関（一般病棟、回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟、療養病棟、緩和ケア病棟等）と密に連絡をとり、調整を行います。また、状況に応じて、介護施設等の入所調整も行います。

毎日のように退院支援カンファレンスにも参加しています。

患者家族にとってのウェルビーイングとは何かを考え、適切な療養先と早期の社会復帰を支援します。

●経済的問題の解決、調整援助

医療費や生活費の心配がある患者さん・ご家族に対し、社会資源を活用して問題の解決を図っています。

お金の切れ目が医療の切れ目とならぬよう、さまざまな医療社会福祉制度や社会資源を活用して生存権を擁護する観点で支援を行っています。

膨大な自己負担が発生するイメージのある臓器移植（肝臓・腎臓・小腸）に利用できる制度の案内も行っています。

全移植患者に介入し、心理・社会的側面に関して事前面接を行い、移植に向け社会制度の支援を行っています。

4. 当院で働く強み①

**院内外の教育プログラムを活用し、
医療福祉を追求する人材を育成します。**

当院は**高度急性期病院**であり、多様な疾患・多様な社会的文化的背景から異なる境遇の患者さんが多数いらっしゃいます。平均在院日数が短い中でも患者さんの持つ可能性を十分に発展させ、自立に向けた支援ができるソーシャルワーカーを目指します。

診療科、領域担当制をとっていません。年齢（高齢者、小児、AYA世代）、疾患や診療科、相談内容を問わずに対応できる**総合力の高いソーシャルワーカーを目指します。**

自立度や習熟度に合わせて成長できる**教育プログラム**を用意しています。

当院で働く強み②

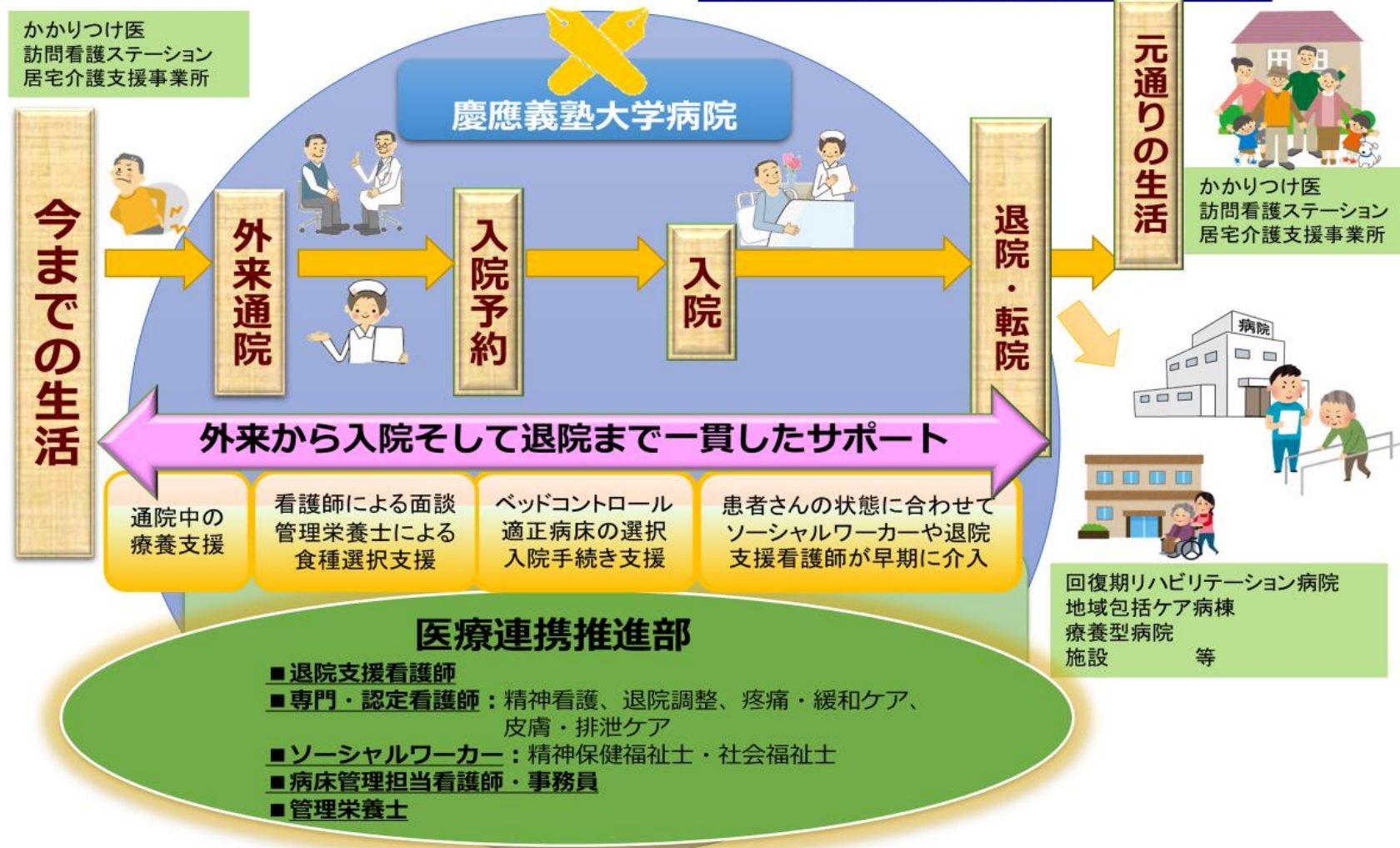
医療連携推進部は多職種が所属しており、チーム医療を実践することができます。

ソーシャルワーカー以外にも退院調整看護師、入退院支援看護師、認定看護師（疼痛・緩和ケア、皮膚・排泄ケア等）、薬剤師、入院転床担当事務員、医療連携担当事務員、管理栄養士等が所属しています。

業種を超えたチーム医療を実践できる環境です。

当院の退院支援のしくみ

医療連携推進部における外来～退院までの 患者さんへのサポート体制



当院で働く強み③

多職種とのチームに所属しチーム内でもソーシャルワーカーの役割を発揮できます。

HIV・エイズ患者支援チーム、精神科リエゾンチーム、
自殺未遂者支援チーム(Action J)、臨床倫理コンサルテーションチーム、
虐待防止委員会(CAPS)、AYA支援チーム

など様々なチームに所属し、ソーシャルワーカーとしての役割を
発揮できます。

チーム紹介

●HIV・エイズ患者支援チーム

エイズ治療拠点病院の役割として

H I V・エイズ患者さんへの制度紹介、心理面への援助など、ソーシャルワーカーが全ケース介入し、院内の多職種と協働しながら支援を行っています。

●精神科リエゾンチーム

身体疾患患者の精神症状(不穏・不眠・せん妄・抑うつ・希死念慮など)の悪化およびそのリスクが高いと予測される場合に、患者や家族のメンタルサポートも行いながら多職種で精神科専門医療を提供します。

ソーシャルワーカーも毎週カンファレンスに参加し、多職種と情報共有を行いながら活動に携わっています。

●自殺未遂者支援チーム（Action J）

自殺未遂で救急搬送された患者さんに対し、再企図を防ぐために、企図に至った背景の解決に向け支援しています。

ソーシャルワーカー、精神科医師、看護師で構成されています。

●臨床倫理コンサルテーションチーム

医療・ケアに関わる倫理的問題について、現場の医療・ケアチームを支援する活動をしています。

診療現場から依頼を受け、チーム内の医師や看護師を交えて協議し、課題の整理や解決に向けた助言を行います。

●虐待防止委員会(CAPS)

児童虐待や高齢者虐待、DVに対する相談を受け、被虐待者の安全と権利の保障のため各関係機関と連携を取っています。

虐待予防の観点から、子どもの養育に不安がある妊産婦への支援も積極的に行っています。

●AYA支援チーム

AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期および若年成人）の略で、主に15歳～30歳代までの世代を指します。AYA世代は就学や就労、結婚や出産、育児に加えて親の介護といった、様々なライフイベントが起こる 時期で、社会の中核を担う世代です。病気に対する治療だけでなく、AYA世代の患者さんに特徴的な精神的・社会的ニーズに対して、長期的な視点に立ったサポートが必要です。AYA支援チームは、多職種で構成されており、患者さんのニーズを課題ごとに整理し、当院が提供する支援につなげられるよう活動しています。

●がん相談支援センター

地域がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院
東京都小児がん診療病院、小児がん連携病院として、
患者さん、ご家族、地域の方々の様々な相談に対応しています。
治療前～他界後まで、療養に関することから治療の内容、
ケアのこと、食事のこと、経済的なこと、
治療と仕事の両立など多岐にわたって相談支援を行います。

個別支援に加えて、患者サロンなどの交流型支援、
情報提供コーナーなどの間接的支援の計画・運営も
行っています。

2025年度第1回がん患者サロン

**がん治療中・治療後の
リハビリテーション**

日常生活で継続できる運動を学びませんか？
実際に体験してみましょう ※動きやすい服装でご参加ください

2025年6月18日(水)
14:30～16:00
ハイフリット開催

講師 **リハビリテーション科 教授 辻 哲也**
「知っておきたいがんリハビリテーション ～がん治療継続の鍵～」
がんサーフィットネス 代表理事 広瀬 真奈美
「日常生活でできる運動」

会場 **慶應義塾大学病院 2号館2階セミナールーム**

対象 **当院の患者さん・ご家族**

申し込み: 下記URL・QRコードよりお申し込みください
*患者サロンで取り扱う個人情報、外部に漏らすことをご注意ください。お申し込みはご自身の責任で行ってください。
<https://forms.gle/RdVtR9Q8Vn2B5aiQ9>

慶應義塾大学病院 がん相談支援センター 2号館1階1R
TEL: 03-5363-3285 (平日9:00～17:00)
*事前予約制です。ご不明な点は上記までにご連絡ください
*申込時に頂いた、個人情報は患者サロン以外では使用しません

5. 教育研修システム

～3ヶ月

1人のスーパーバイザーが
担当となり指導します。
スーパーバイザーの指導の
もと、電話応対や来室患者家族
の応対を適宜行っていきます。

3ヶ月～1年

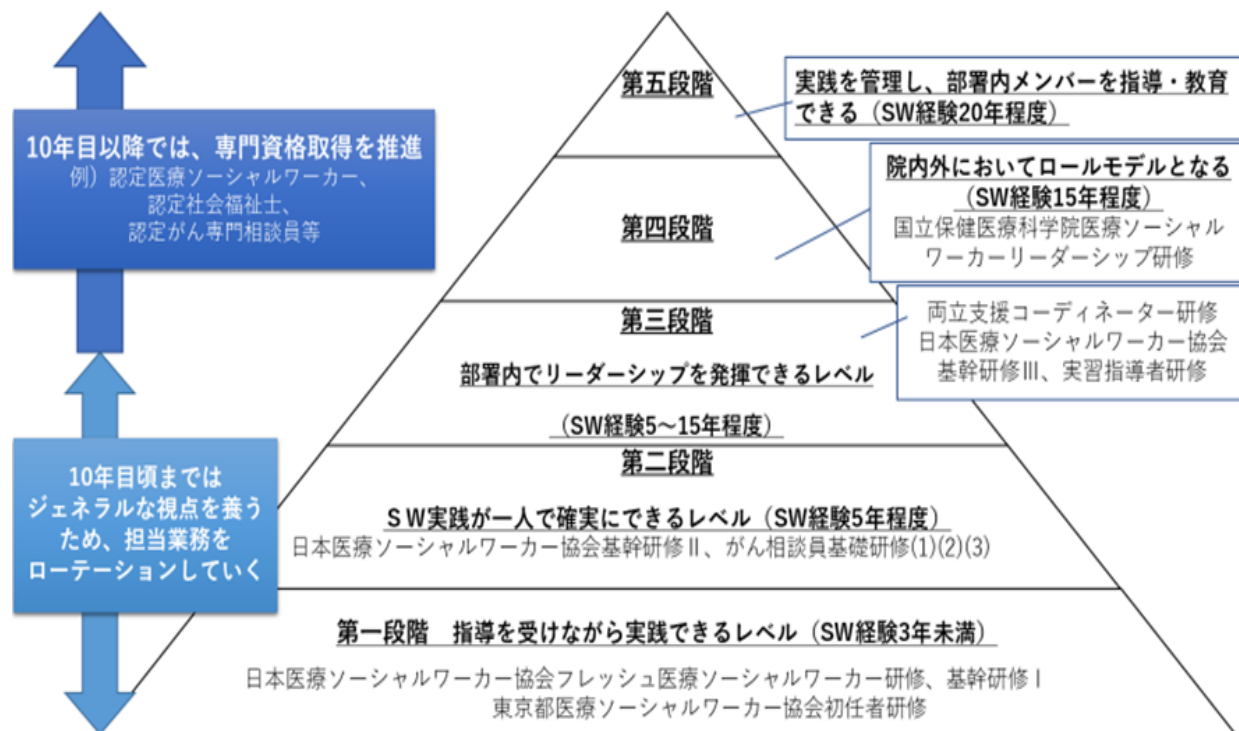
スーパーバイザーの指導の
もとで患者面接を行います。
習熟度に応じて、スーパー
バイザーの助言のもと1人
での面接を開始します。

1年～3年

知識価値の習熟度に応じて、
ソーシャルワーカー内の
スーパービジョンを受けながら
業務範囲を広げていきます
(例：臓器移植に伴う社会保障
の活用、児童虐待等)。

ソーシャルワーカーキャリアラダー

経験年数に応じて院内外の研修会や各種学会に参加し、ソーシャルワークの知識、技術の専門性と倫理性の維持・向上を行います。



6. 職場環境（医療連携推進部）



「1R」が医療連携推進部のソーシャルワーカーの相談窓口です。
ソーシャルワーカー相談以外にも入院受付や栄養相談などの窓口でもあります。

職場環境（面接室）



面接室は患者さんのプライバシーを守るために個室となっています。

職場環境（執務室）



医療連携推進部には約60名のスタッフが所属しています。
デスクは部門ごとに固まって配置されています。ソーシャルワーカーは退院調整看護師と同じ並びです。

職場環境（患者総合相談部）



同じ「1R」の窓口として患者総合相談部が隣接しています。
こちらでは病院へのご意見・ご要望、患者申出療養等に対応しています。

職場環境（がん相談支援センター）

健康情報ひろば Health Information Plaza



がんに関するパンフレットを取り揃えています。
病気の説明を行うものだけでなく、利用できる制度や治療の副作用対策に関するパンフレットもあります。

ソーシャルワーカーは非常にやりがいのある仕事です

- 医療機関での社会福祉的課題は患者家族の意思決定や治療に大きな影響を与え、私たちの業務には大きな責任が伴います。その責任は診療報酬としてソーシャルワーカー（社会福祉士）の配置基準そのものに影響を与えています。
- 当院は高度急性期病院のため、高度医療を求める患者から多岐にわたる相談が寄せられ支援を必要とされます。その課題を支援するため、日々の業務に加えて院内外の研修、そして自己研鑽で私たち自身が多くを学び成長していく必要があります。
- 慶應義塾大学病院には学び続けられる環境があります。
- ともに楽しく、時に迷い悩みながら、クライアントに寄り添った支援ができる総合力高いソーシャルワーカーと一緒に目指しましょう。

慶應義塾大学病院はソーシャルワークを幅広く
実践できる素敵な環境です
私たちと一緒に働きませんか？



見学は行っておりませんが
質問がありましたら下記までご連絡ください

慶應義塾大学病院
人事課 医療連携推進部採用担当まで

TEL : 03-5363-3615
E-mail : s_jinji_saiyo@info.keio.ac.jp